

The Great Gatsby の一考察

森 岡 力

F. Scot Fitzgerald⁽¹⁾ によって書かれた *The Great Gatsby* は一九二五年に出版され、一人称の語り手、信託会社に勤める証券マン Nick Carraway が Gatsby について読者に語る物語である。Jay Gatsby は夢を追求し、夢に殉ずる人物である。小論においては Gatsby の夢、語り手 Nick、一九二〇年代と *The Great Gatsby* について考察したいと思う。

Gatsby の夢

Gatsby の夢は富を築き、order, 言い換えれば Daisy を取り戻すことである。彼の両親は shiftless and unsuccessfull farm people (99) でそのようなうだつの上がらぬ両親を彼は受け入れることができなかった。少年の時以来、世の中で成功するために Benjamin Franklin の格言のように厳しいノルマを自分に課している。

Rise from bed	6.00 A.M.
Dumbbell exercise and wall-scaling	6.15-6.30 "
Study electricity, etc	7.15-8.15 "
Work	8.30-4.30P.M.
Baseball and sports	4.30-5.00 "
Practice elocution, poise and how to attain it ...	5.00-6.00 "
Study needed inventions	7.00-9.00 " (174)

テキストは、F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (New York: Charles Scribner's Sons) を使用。本文中括弧内の頁数は全てこれに拠る。

(1) 並木信明、『トマス・サトペンとジェイ・ギャッビー』英語青年、一九八八年六月号（研究社）p. 128 でサトペンとギャッビーが比較検討されている。

破産した家を出て以来、各地を点々としながら、clam-digger, salmon-fisher 等、寝食を得るためには何でもした。Lake Superior で鉱山で大富豪になった Dan Cody のヨットを見た時、ヨットは all the beauty and glamour in the world (101) をあらわしていた。この時、世の中に出て行くために James Gatz から Jay Gatsby に変え、彼の夢達成に取りかかる。

So he invented just the sort of Jay Gatsby that a seventeen-year-old boy would like to invent, and to this conception he was faithful to the end. (99)

軍隊で lieutenant をしている頃 Daisy Fay に出会う。Daisy の家は Louisville にあり、その付近では最も大きな旗と最も大きな芝地を所有していた。彼女は Louisville きっての人気ある女の子で、白っぽい、小型のロードスターを持ち、白っぽい服装をし、white girlhood (20) を過していた。Daisy の生れ育った環境と Gatsby のそれとの間にはギャップがあった。

...of Daisy, gleaming like silver, safe and proud above the hot struggles of the poor. (150)

Gatsby には誇れるような過去も無く無一文であった。しかし彼は Daisy に相応しい人物であることを実際以上に見せようとする。

...he let her believe that he was a person from much the same stratum as herself—that he was fully able to take care of her. (149)

Gatsby と Daisy の関係は Daisy が物質的世界に生きているために physical contact ⁽²⁾ のままであった。

They had never closer in their month of love, nor communicate more profoundly one with another, than when she brushed silent lips against his coat's shoulder or when he touched the end of her

(2) Matthew J. Bruccoli (ed.), *New Essays on The Great Gatsby* (Cambridge University Press), p. 49.

fingers, gently, as though she were asleep. (6)

五年後 Gatsby が第一次世界大戦から帰国した時 Daisy は Gatsby を待って結婚するのではなく、生れながら富を与えられた、とても富裕な家の出身の Tom Buchanan と結婚する。

His family were enormously wealthy—even in college his freedom with money was a matter for reproach— (6)

Daisy の女性観は彼女の娘に対する教育方針にあらわれている。男性に依存した女性になることである。

I'm glad it's a girl. And I hope she'll be a fool—that's the best thing a girl can be in this world, a beautiful little fool— (17)

シカゴ出身の Tom Buchanan は豪華な結婚式のパーティをしたり、Daisy に三五万ドルの a string of pearl を贈ったりする。結婚後 Tom と Daisy は East Egg にある Georgian colonial mansion に住んでいる。Tom はエール大学時代二一才の時フットボールの選手で a national figure であったが、それ以来全てが anticlimax 気味である。彼は a scion of those ruthless generation⁽³⁾ を彷彿させ、外見的描写に関して特徴的である。

You could see a great pack of muscle shifting when his shoulder moved under his thin coat. It was a body capable of enormous leverage—a cruel body. (7)

“...That's what I got for marrying a brute of a man, a great, big, hulking physical specimen of a—” (12)

Tom の態度は supercilious, arrogant, snobbish である。Tom は遊び人でもある。彼は Daisy と結婚後すぐ Santa Barbara のホテルの女中と自動車事故を起したり、女の子が生れた時居所不明である。彼には妻の

(3) Arthur Mizener (ed.), *F. Scott Fitzgerald* (New Jersey: Prentice-Hall, Inc.), p. 137.

Daisy 以外に情人 Myrtle Wilson がいる。Myrtle は Tom と同じ富裕な階級の女性ではなく West Egg と New York の中間にある a valley of ashes で自動車修理販売店を営んでいる貧乏な George B. Wilson の妻である。Myrtle は Wilson が “gentleman” に見えたから彼と結婚したのであるが、現在の Wilson との生活から逃げたがっている。Myrtle と Daisy は貧富の差はあっても行動様式が良く似ている。Tom は Myrtle に妻 Daisy の名前を言わせない。Myrtle の地位は Tom の生活においては tangential⁽⁴⁾ なものである。Tom は彼女との関係を spree と考えている。

“Daisy! Daisy!” shouted Mrs. Wilson. “I’ll say it whenever I want to! Daisy! Dai-”

Making a short deft movement, Tom Buchanan broke her nose with his open hand. (37)

Tom は Myrtle と New York に行く時、Myrtle と同じ階級の人と見なされない様に、East Egger の sensibility⁽⁵⁾ に従って Myrtle を別の車輛にのせる。

Tom も Daisy も保守的な白人優越主義者であり、薄情で、無責任、品位に欠ける所がある。Tom は Wilson によって Gatsby の命が狙われることが判っていながら、Myrtle をひいた車の持主を暗に Wilson に教える。

“...It’s up to us, who are the dominant race, to watch out or these other races will have control of things.”

“We’ve got to beat them down,” whispered Daisy. (13)

“Listen,” said Tom, shaking him a little. “I just got here a minute ago, from New York. I was bringing you that coupe we’ve talking about. That yellow car I haven’t seen at all afternoon.”

(4) Bruccoli, *op. cit.*, p. 69.

(5) *Ibid.*, p. 70.

(141)

Tom は Gatsby の生命を守ることよりも、self-pity に終始している。又 Myrtle の死よりも Tom はこの事件で Myrtle と New York に借りていたアパートをあきらめなければならないことや、アパートに残っている Myrtle のペットの犬のドッグ・フードのここの方を辛いことだと考えている。

Daisy は Myrtle の事件後、Tom や警察に連絡したり、Myrtle を介抱するとかは全くしていない。又 Gatsby が Daisy の責任の身代りとなって、誤解した Wilson の人違いの犠牲になったにもかかわらず、Gatsby の葬式に姿も見せず、花一輪も送ってこない。Gatsby の死に対しても Daisy と Tom は callous selfishness⁽⁶⁾ である。

Gatsby は悲劇的死を迎えるまで Daisy を中世騎士が the Holy Grail を求めるように追い求めつづける。Daisy という名前は「ひな菊」、「自然」を意味する。しかし彼女の住んでいた世界は artificial world (151) である。彼女の声は full of money (120) である。Daisy と別れてから五年間という短期間に Gatsby はアウトローの仕事 (bootlegging, drug business, oil business 等) をしながら、East Egger に匹敵する財を築き、物質的豊かさを得ている。ギャンブラーで shoot-outs の経験もある、人の臼歯に似せてつくったカフス・ボタンをした Meyer Wolfsheim と道徳的負い目を感じることもなく交際している。Gatsby が軍隊から復帰した第一次大戦後の世の中は meaningless and loveless⁽⁷⁾ であった。彼の a code for expressing emotions⁽⁸⁾ は manners や物質的なものによってである。Gatsby の manners は目的のある an unbroken series of successful gestures (2) と見られている。

“I thought you knew, old sport.

(6) Mizener, *op. cit.*, p. 139.

(7) Bruccoli, *op. cit.*, p. 47.

(8) *Ibid.*, p. 46.

I'm afraid I'm not a very good host.” (48)

Some time before he introduced himself I'd got a strong impression that he was picking his words with care. (49)

Gatsby は the Buchanans の家の対岸に資金を得るのに三年もかかったノルマンディーのホテルを模倣した五十エーカー以上の芝地のあるマンションを購入する。このマンションには「本物らしさ」「優雅さ」, 「美的センス」はない。自動車も色々な装備のある豪華なものである。

It was a rich cream color, bright with nickel, swollen here and there in its monstrous length with triumphant hat-boxes and supper-boxes and tool-boxes. (64)

その他に swimming-pool, hydroplane を所有している。服装は華美である。白いフランネルのスーツ, 銀色のシャツ, 金色のネクタイをしている。毎週末 Gatsby は Daisy に再会する機会も持てるのではないかとパーティを主催している。パーティに来る人達は遊園地に行くような気持で来ている。

There was music from my neighbor's house through the summer nights. In his blue garden men and girls came and went like moths among whisperings and the champagne and the stars. (39)

パーティに来る人達にとって Gatsby は a likable, romantic hero であるだけでなく, a creature of myth ⁽⁹⁾ となっている。パーティに来た人達を送る彼の姿にあらわれている。

...endowing with complete isolation the figure of the host, who stood on the porch, his hand up in a formal gesture of farewell (56)

このパーティの無意味さはパーティ出席者の一人 Klipspringer に Nick が Gatsby の葬式への出席を促した時 Klipspringer は Gatsby のマンションに忘れたテニスシューズのことをより気づかっている事にあらわれて

(9) Mizener, *op. cit.*, p. 131.

いる。パーティ出席者名簿にある氏名を Nick は過ぎ去って行く時間と同じようにはかないかのように時刻表の端に書きつけている。それらは vulgar American fortunes and vulgar American destinies⁽¹⁰⁾ を示している。

...Doctor Webster Civet, who was drowned last summer up in Maine. (61)

Newton Orchid, who controlled Films Par Excellence, (62)

Gatsby は Nick や Jordan を介して慎重に Daisy に再会する。五年間に Gatsby の Daisy に対する愛情は一層強まっている。Daisy が Tom と結婚し、女の子も生れている現実にもかかわらず、Gatsby はその事は彼にとって問題ではない。

Afterward he kept looking at the child with surprise. I don't think he had ever really believed in its existence before. (117)

Nick が過去は繰り返せないと言っても、過去は繰り返せるのだと言う。Gatsby は Tom に Daisy に対して “I never loved you.” と言うことを求める。Gatsby が Daisy が Tom を愛していたとしても personal だと言う時 Gatsby の Daisy に対する思いは尋常でないことがわかる。このことに言及して Lionel Trilling は Gatsby は an insane greatness に達し、a platonic conception of himself⁽¹¹⁾ であると述べ、Roger Lewis は Gatsby には mythical, larger-than-life dimension が与えられていると述べている。⁽¹²⁾

危険が自身に迫る時、誰に生命の危険が及ぼうと全く無頓着な Tom と違って、Gatsby は危険をかえりみず、Daisy に対して保護的行動をする。Myrtle の自動車事故死に道義的責任があるのは Tom であり、Daisy が運転していたのだから、直接関与しているのは Daisy である。Gatsby は、

(10) *Ibid.*, p. 130.

(11) *Ibid.*, p. 18.

(12) Bruccoli, *op. cit.*, p. 47.

Daisy の Tom や Gatsby に対する愛情めぐって起きた午後の Plaza Hotel での口喧嘩のとぼっちりが Daisy に及ばないように、the Buchanans のいる邸の外で見張っておくつもりだと Nick に言う。

“I want to wait here till Daisy goes to bed. Good night, old sport.”

He put his hands in his coat pockets and turned back eagerly to his scrutiny of the house, (146)

しかし Tom と Daisy は何事もなかったように何か話し合っている様に Nick には思われた。

There was an unmistakable air of natural intimacy about the picture, and anybody would have said that they were conspiracy together. (146)

Nick には Daisy が Gatsby を裏切り、Gatsby の Daisy に対する illusions がこわれてしまったことがわかるが Gatsby にはわからない。Gatsby は Daisy を見張っているのではなく watching over nothing (146) である。自動車事故後 Nick の危険だから、しばらく姿を消すようにと言う助言にもかかわらず、Gatsby は自分の邸から離れないでいる。

He wouldn't consider it. He couldn't possibly leave Daisy until he knew what she was going to do. He was clutching at some last hope and I couldn't bear to shake him free. (148)

Gatsby は West Egg にある Gatsby のマンションの庭から Daisy の家の棧橋にある、法律的には赤色であるべきだが、a signal to go ahead⁽¹³⁾ の緑色の明りに魅せられていた。

-he stretched out his arms toward the dark water in a curious way, and, far as I was from him, I could have sworn he was trembling. Involuntarily I glanced seaward-and distinguished nothing except a single green light, minute and far away, that

(13) Mizener, *op. cit.*, p. 104.

might have been the end of a dock. (22)

Gatsby が夢を可能な限り追いつづけ、未来を信じていたことが Nick によって語られる。

Gatsby believed in the green light, the orgiastic future that year by year recedes before us. (182)

green light は Daisy の現実とは、掛け離れた、Gatsby が作り上げた illusion である。Marius Bewley は Daisy は Gatsby の中で二つのレベル、What she is と Gatsby's vision で存在していると述べている。⁽¹⁴⁾ Gatsby は実際の Daisy よりはるかに越えたものを Daisy の中に求めつづけていたのである。

...Daisy tumbled short of his dreams-not through her own fault, but because of the colossal vitality of his illusion. It had gone beyond her, beyond everything. (97)

Gatsby は Daisy の the destructive element ⁽¹⁵⁾ に最後まで気づかないために Trimalchio としての生涯を悲劇的な死で終え、彼の夢の達成は不可能に終る。このことは非常に有能な Gatsby にしては判断能力、分析能力の欠如していたことになる。これは the American dream の本質的な部分であるといわれている。⁽¹⁶⁾

語り手 Nick

The Great Gatsby は一人称の語り手 Nick で始まり、Nick で終る。季節は一九二二年春に物語は始まり、秋に終る。Nick は a sophisticated observer, a judge ⁽¹⁷⁾ でもある。Nick は Gatsby と違って裕福な、かなり古い家系の出身である。

My family have been prominent, well-to-do people in this Middle

(14) *Ibid.*, p. 132.

(15) *Ibid.*, p. 139.

(16) *Ibid.*, p. 139.

(17) Phillip Northman, *The Great Gatsby* (Nebraska: Cliffs Notes), pp. 42-43.

Western city of three generations. The Carraway are something of a clan, and we have a tradition that we're descended. (3)

Nick は若く多感な年頃の時、父親より他人を批判する時は彼が他人より advantage を持っていることを肝に銘じておくよう注告を受ける。Nick はプロローグで Gatsby は everything for which I have an unaffected scorn を体現していると同時に、人生の希望に対して some heightened sensitivity, 言い換えるなら an extraordinary gift for hope, a romantic readiness という相反する二面を持っていたと述べている。

Nick は Gatsby に対して、初め批判的な点を持っていたが、後に共感を抱くようになる。Gatsby のかつて Oxford 大学生であったという事柄についての説明と、Gatsby が運転していたと思った Myrtle の自動車事故死について Gatsby がふと漏らした言葉によって Nick の Gatsby に対する理解が深まっている。

I wanted to get up and slap him on the back. I had one of those renewals of complete faith that I'd experienced before. (130)

It was the only compliment I ever gave him, because I disapproved of him from beginning to end. First he nodded politely, and then his face broke into that radiant and understanding smile, (154)

Nick は Daisy や Tom に対しては a rotten crowd (154), Gatsby に対しては “you're worth the whole damn bunch put together.” と言う。the Buchanans から紹介され、Nick が交際していた Jordan Baker が Myrtle 自動車事故死後、Tom と Daisy のいる家に、何もなかったように彼女が入って行く時、Jordan も Tom, Daisy と同じような非情、無責任な人間であると思い Nick は室内には入らない。

I'd be damned if I'd go in; I'd had enough all of them one day, and suddenly that included Jordan too, she must have been something of this in my expression, for she turned abruptly away

and ran up the porch steps into the house. (143)

Jordan が Nick に Daisy, Tom, chaos, destruction を想起させる時 Jordan と別れる。Jordan との loveless affair は refuse the sea might sweep away⁽¹⁹⁾ にたとえられている。

三十才に達した時 Nick は Myrtle Wilson の死, Gatsby の悲劇的な死, the Buchanans の moral vacuousness⁽²⁰⁾ を経験し、東部が歪で、エル・グレコの夜の情景のように見える。東部からは provincial squeamishness と見える Middle West に帰る決心をする。

Nick は Middle West, Gatsby は North Dakota の出身である。Daisy は Kentucky 州 Louisville, Tom は Chicago からそれぞれ East に来ている。

After all-Tom and Gatsby, Daisy and Jordan and I, were all westerners, and perhaps we possessed some deficiency in common which made us subtly unadaptable to Eastern life. (177)

Tom と Daisy は東部に残るが無目的に drift⁽²¹⁾ しながらである。そのことは Daisy の次の言葉にあらわれている。

“What’ll we do with ourselves this afternoon?” cried Daisy, “and the day after that, and the next thirty years?” (118)

Nick は第一次世界大戦後の退屈な田舎の Middle West から物質的に豊かな都市の East に出て来たはずなのに、East の sophistication, moral vacuum⁽²²⁾ に耐えられなくなり、order を求める気持から Middle West に帰郷しようとする。しかし彼は life’s possibilities を認めるか life’s uncertainties and dangers⁽²⁴⁾ から逃れるか ambivalent である。

(18) Bruccoli, *op. cit.*, p. 70.

(19) *Ibid.*, p. 48.

(20) Northman, *op. cit.*, p. 43.

(21) Mizener, *op. cit.*, p. 112.

(22) Northman, *op. cit.*, p. 43.

(23) Bruccoli, *op. cit.*, p. 75.

(24) *Ibid.*, p. 71.

East Egg を去る前に Nick は Gatsby の lost dream⁽²⁵⁾ を America's dream に結びつける。新大陸に渡ってきたオランダ人達まで敷衍する時、新大陸を green breast と女性のイメージで述べる。

The old island here that flowered once for Dutch sailors' eyes- a fresh, green breast of new world. (182)

希望の色である green によって Gatsby の夢と America の夢を結びつけている。materialistic ethic に基づいた Gatsby's corruption と historical corruption of the American spirit⁽²⁶⁾ を関係づけている。現在の East Egg, West Egg, a valley of ashes には betrayal of dreams⁽²⁷⁾ が存在している。しかし Nick は次のように考える。

So we beat on, boats against current, borne back ceaselessly into the past. (182)

一九二〇年代と *The Great Gatsby*

Malcom Cowley は作者 Fitzgerald は sense of living in history⁽²⁸⁾ を持ち、the age in which he lived⁽²⁹⁾ を明確に見ることができたとと言われる。一九二〇年代は第一次世界大戦後 laissez-faire の資本主義が頂点に達し、世界で最も豊かな物質文明を享受する時代である。この時期には Henry Ford による自動車の普及、憲法修正第一八条にかかわらず飲酒のファッション化、犯罪の増加、freedom of opportunity と upward mobility⁽³⁰⁾、貧富の差、スポーツの大衆化、女性の Victorian restraints⁽³¹⁾ に対する反発等

(25) *Ibid.*, p. 76.

(26) Northman, *op. cit.*, p. 41.

(27) Bruccoli, *op. cit.*, p. 76.

(28) Mizener, *op. cit.*, p. 64.

(29) F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (New York: Charles Scribner's Sons), p. 231.

(30) Robert A. Divine, *America Past and Present Volume II* (Illinois: Scott, Foreman and Company), p. 419.

(31) *Ibid.*, p. 410.

である。

The Great Gatsby の中では Gatsby は Rolls-Royce, station wagon を Daisy は娘時代 roadster を乗り回している。自動車の修理、売買を営む Wilson のガレージの片隅には埃をかぶったポンコツのフォード車がある。

Gatsby は毎週末パーティを開き無料で酒類を提供している。Gatsby は一時 bootleggar であり, slang を使用するギャンブラーの Meyer Wolfsheim と交際し, シカゴからの長距離電話によると証券に関して不法な事を行っていることがわかる。

Gatsby の手本にもなる Dan Cody が銀山やゴールド・ラッシュで一躍富豪になったり, Gatsby は貧農の子として生れ, 独力で富を築いている。West Egg では白人のおかかえ運転手付きの自動車に黒人が乗っていたりする。

Nick は一九二二年, 周囲の人達の多くが bond business に従事しているので東部に行き a bond man になる。East Egg は old money, West Egg は new money を獲得している人達である。a valley of ashes は waste land として描かれている。

Jordan Baker はプロのゴルフ・プレイヤー, Tom は元エール大学のフットボールの選手である。プロ野球のワールド・シリーズでの買収事件もでてくる。

Jordan Baker は an unbroken series of successful gestures をするけれども Nick には不正直であり, 二人は別れる。Daisy は Tom と Gatsby の間を drift するが結局 West Egg の something awful, raw vigor (108) のために Gatsby から去る。Myrtle は夫以外の Tom とニューヨークのアパートで時々生活している。

この様に *The Great Gatsby* の中に Fitzgerald は一九二〇年代の特徴を巧みに取り入れている。

作者 Fitzgerald も一九二〇年代野心的青年同様 fabulous New York を目ざし、作家として大成功した時、彼自身 the exemplar of dreams and America's interpreter of those dreams⁽³²⁾ であった。Trilling は Fitzgerald がアメリカが与える最も貴族に近い “very rich” に対して a certain ambiguity を持っていたと述べている。⁽³³⁾ 又 Malcom Cowley によると Fitzgerald は自己の貧乏な時を思って leisure class に対して、いつも distrust, animosity を抱いていたと言っている。⁽³⁴⁾ *The Great Gatsby* の中では Tom と Daisy が Gatsby に対して圧倒しているように思えるが、彼等は What they are⁽³⁵⁾ にすぎない人々と言える。彼等よりも Gatsby, Nick が重要である。Fitzgerald は Crack-Up の中で次のように述べている。

...the test of a first-rate intelligence is the ability to hold two opposed ideas in the mind at the same time, and still retain the ability to function.⁽³⁶⁾

Gatsby と Nick について Henry Raleigh が言っている様に Gatsby は imagination, dream を Nick は reason, reality を寓意している。⁽³⁷⁾ Nick と Gatsby は対称的な役割をしており、どちらも作者の分身であるように思える。Nick と Gatsby によって *The Great Gatsby* は一九二〇年代、アメリカという素材を扱いながら、それらを越えた a sense of eternity を持った作品となっている。⁽³⁸⁾

(32) Fitzgerald, *op. cit.*, p. 233.

(33) Mizener, *op. cit.*, p. 14.

(34) *Ibid.*, p. 65.

(35) *Ibid.*, p. 102.

(36) *Ibid.*, p. 13.

(37) *Ibid.*, p. 103.

(38) *Ibid.*, p. 103.